

追悼

藤井永喜雄さん

岡山天文博物館長・藤井永喜雄氏が急性呼吸不全で75歳9ヶ月の生涯を終えられた。1990年11月4日午前5時29分のことであった。

1990年8月26日に亡くなられた本田 実氏とは、1949年(昭和24年頃)からの良き友であった。その友を追われたのか、その友に呼ばれたのか、全くの急逝であった。藤井さんは約10年前に、胃の切除という大手術を受けられたが、その後は健康に留意され、天文博物館の充実に励まれていた。岡山県の天文界は、本田さんに続いて、またもやその良き指導者を失ったことになる。

藤井さんの天文歴は大変に長い、と聞いている。今、ここに昭和11年の日本天文学会会員名簿がある。この名簿には藤井さんの名前も、本田さんの名前も見当らない。しかし、戦前からの会員であった由。第2次世界大戦終了までは、台湾・台北市で公務につかわれていて、その傍ら、五藤光学製の3吋屈折望遠鏡で二重星の観測を続けられていた。その当時からの友人の1人が、現・台北市天文台長・蔡章猷氏である。蔡氏は訪日のたびに藤井さんを思い出されていて、一度ならず金光町に足を運び旧交を温められたという。

第2次世界大戦終了と共に、郷里・岡山県浅口郡金光町に帰られ、昭和22年5月に開館した金光図書館に司書として勤務された。金光図書館は、金光教本部が運営する私立の図書館で、当時その地方で最も文化的な施設であった。館長は現・金光教主・金光鑑太郎先生(碧水と号される歌人)で、館長の良き理解の下に趣味の天文をも併せて実行されていたのである。

時は移り、1950年(昭和25年)ごろ、当時の東京天文台天体掃索部は流星の多点同時観測を行っていた。そして、その観測点を岡山測候所と藤戸町にあった県立天城高校に運び、出張観測が行われた。この観測の経験から、岡山県金光町に天体掃索部の金光観測所を開設した。1951年(昭和26年)のことである。設場場所は金光町占見新田に改・移築したばかりの金光学園の校庭東南隅の一角である。金光学園も図書館と同じく、金光教が運営する学園である。この学園の構内に、東京天文台金光観測所を開設するのである。図書館長・金光鑑太郎先生と藤井さんの努力に負うところが大変大きかった。この観測所は以来10年、主に故・下保茂氏によって観測が続けられ1961年(昭和36年)にその幕を下すことになる。しかし、この観測所で得られた多くの観測資料が、74吋望遠鏡を持つ岡山天体物理観測所の開設に大きな、また重要な役割を果すことになった(東京天文台年次報告1961年版)。そして、74吋(188cm)鏡の建設の槌音は、本誌1955年2月号以下で、次々と聞くことができるのである。

1957年10月4日、ソ連は人工衛星スプートニクを打ち上げた。宇宙時代の幕開けである。日本天文学会は、人工衛星眼視観測網を全国的に開設することになった。その中に藤井さんをリーダーとする、人工衛星観測金光班があった。金光学園の高校生を主なメンバーとする活躍の状況は、本誌1958年(51巻)4月号の77頁に、藤



金光町佐方に建立された隕石落下地石碑と関係者。前列左より2人目が藤井永喜雄氏、後列左より2人目は清水 実氏、3人目は本田 実氏(昭和41年4月)

井永喜雄氏署名の記事として見る事ができる。その記事には“この一角は学園の天界村と称されている如く、10米の測風塔がそびえる学園気象測候所、東京天文台金光観測所、学園天文台と、天界に関係ある建物が立ち並んでいる”と、そしてその一隅にスライドルーフ式のL型の人工衛星観測所があった。

金光図書館は定期刊物物として、図書館報「土」を刊行している。この中に、藤井さんの“妙見信仰”に関する論文を見ることが出来る。岡山県下には、多数の“妙見信仰”に係わる祭祀が保存されている。この現状と由来の調査報告である。この調査は、金光図書館を退職された後も続けられ、ミニバイクに乗りほば県内全域を回られていた。その一端が、“岡山県下における妙見祭祀の現状”として発表されている。また、地元伝わる口伝から、隕石調査を行い、一つは富田隕石として現物を探し出し、日本の隕石リストに村山定男氏により記載されている。金光町にも隕石落下の記録のあることを知り、調査の末、落下地を特定された。この2件共、その後隕石落下の地を示す石碑が建立されている。

藤井さんは昭和22年11月より昭和56年6月までの間、金光図書館の司書を務められ、傍ら金光学園の講師として天文部の創設・育成に関係して来られた。その感化は大きく、大西恒夫・鴨方町長や、三宅靖夫・船穂町長などは地方行政面で活躍するかつてのアstro・ボーイである。また、いまだに見果てぬ夢を追い続けているのが大阪教育大の定金晃三氏や、筆者などである。

昭和63年4月、岡山天文博物館が、県から鴨方町へ移管されることになり、県の社会教育課に請われ、葛川浅男館長の後任として、新・岡山天文博物館の館長の重責を務められていた。そして、その内容の充実と強化に励まれていた矢先の御逝去である。本田さんの御葬儀に参列しお会いした時、名コンビの相棒を失われた悲しみから、大変な落胆の御様子であったが。

1958年には人工衛星観測感謝状、1959年にはアメリカ科学アカデミー賞、1990年には鴨方町特別文化功労賞など多数の賞を受けられた。

岡山天体物理観測所が開設以来30年を経過し、JNLT大型望遠鏡計画が進行する今、またもや74吋(188cm)望遠鏡誕生に係わる、恩人の1人を失ったことになる。

心から哀悼の祈りを捧げると共に、御冥福をお祈りしたい。

1990年11月22日 香西洋樹